

推進校別事業実績報告書

＜取組と成果のポイント＞

- ・授業研究会、研修会を通して、多くの教員が自信をもって道徳の授業に取り組むことができるようになった。
- ・出会いや体験を生かした道徳授業を行うことで、話し合いが活発になり児童の考えに深まりが見られた。
- ・道徳授業を公開することにより、保護者・地域の方々の道徳に対する関心が高まった。
- ・外部講師の講演会に保護者の参加を呼びかけることにより、学校の道徳教育についての理解を深めていただいた。

1 推進校の概要

学 校 名	所 在 地	電 話 番 号	児 童 数	備 考
愛知県安城市立錦町小学校	愛知県安城市錦町9-39	0566(75)2725	608人	

2 研究課題

- (1) 学校の教育課程を踏まえた道徳教育の内容の重点化
 - ア 命の尊さを実感し、共に生きる心を育む道徳教育
 - イ 人間としての在り方、生き方の自覚を深める道徳教育
 - ウ 進んで人間関係をつくる力をはぐくみ、公共心を育てる道徳教育
- (2) 道徳の時間の創意工夫
 - ア 地域人材の活用・開発をする。
 - イ 体験を生かし、感動と充実感を生み出す。

3 研究主題とその設定理由

(1) 研究主題

「豊かな心を持ち、自らの生き方を学び続ける子どもの育成」
—人との出会いや体験を生かした道徳授業の実践を通して—

(2) 主題設定の理由

本校では、児童に自らを高めることや社会に役立つことを身につけることを目標にし、研究に力を入れてきた。特に、「自らの人生をたくましく切り拓き、社会に生かすことのできる人間」という観点から、いろいろな分野で活躍している方々をお招きし、お話を聞くことを通して、その生き方を考えさせてきた。

本年度は、さらに「人との出会いや体験を生かした道徳教育」を推進し、温かい人間関係を大切にしながら、社会のために主体的に行動しようとする道徳的心情と実践力を育てることを目標として研究に取り組んだ。

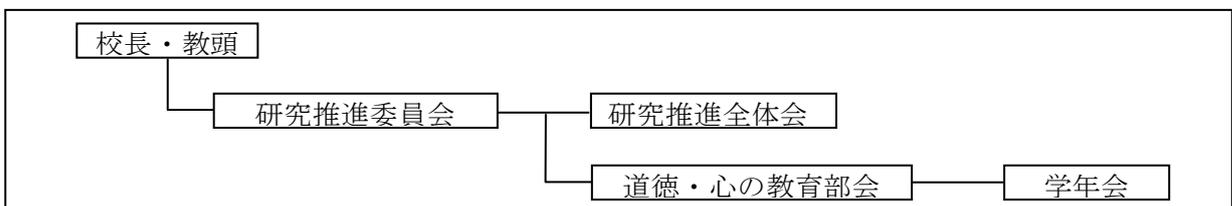
4 研究の概要及び特色

学校教育全体を通して計画的に道徳教育を推進する。その中で、「命の大切さを実感し、共に生きようとする児童」や「自分の生き方を振り返り、自らの人生を切り拓いていく児童」の育成を考えている。児童の育成においては、心に響く道徳教育の推進が必要である。そこで、道徳の時間の充実を図るため、各教科、特別活動及び総合的な時間との関連づけ、効果的な人材の活用や体験を生かした指導を追究する。

(1) 研究仮説

- ア 出会いや体験を通して、自分の生き方を振り返ったり、将来の在り方を考える場を設定したりすれば、共に生きることを考え、自分の生き方をより深く考えることができるであろう。
- イ 各教科、特別活動及び総合的な時間を有効に関連づけて道徳の時間の充実を図れば、道徳的心情と実践力を育てることができるであろう。

(2) 研究組織



(3) 研究の内容

人との出会いや体験を生かした道德教育の実践を推進することで、豊かな心を持ち、自らの生き方を学び続ける子どもを育成する。

ア 公共心を育む道德授業の研究について

- ・ 道德の全体計画及び年間計画を作成する。
- ・ 自らの生き方を考え、公共心を育む道德授業の研究を進める。
- ・ 児童の発達段階に即した資料の選定と活用方法の研究を進める。

イ 出会いや体験の取り入れ方について

- ・ 道德の授業を中心に、総合的な学習や特別活動など教育活動全般の中で、人との出会いや体験の場の効果的な設定について研究する。
- ・ 人（外部講師）との出会いや体験を効果的にする方法を研究し、道德性の内面化や実践意欲の向上を図る。

ウ 家庭や地域との連携について

- ・ 保護者や地域の人々に対しての授業や活動の公開を進める。
- ・ 保護者や地域の人々とのふれあい、共に活動する機会を設定する。

5 研究計画

1 学期：全体計画、組織づくり、授業実践、講師を招いての職員の研修

2 学期：授業実践、講演会

3 学期：研究のまとめ、成果を発信

6 これまでの取り組みと成果

(1) 公共心を育む道德授業の研究について

ア 低中高学年のブロック単位での研究授業

研究授業実践にあたり、低中高学年の各ブロック会で指導案作成時から検討会を行い、授業を参観した。参観後、各ブロックで研究協議会を行った。

- 5月 8日（火）1年松組
主題名 「がっこうだいすき」4－（4）愛校心
資料名 「ほけんしつのせんせい」（公文書院）
- 5月29日（火）5年梅組
主題名 「自分の役割はきちんと」4－（3）役割の視覚と責任
資料名 「移動教室の夜」（光村図書出版）
- 6月 7日（木）3年梅組
主題名 「夢をかなえるために」1－（2）勇気と希望
資料名 「奇跡の夢ノート」DVD
- 6月19日（火）2年桜組
主題名 「友達っていいな」2－（2）友情、助け合い
資料名 「ブランコ」（きみがいちばんひかるとき）
- 6月21日（木）4年梅組
主題名 「誰かのために」4－（2）勤労
資料名 「ぼくにできること」（明るい心）
- 9月27日（木）5年竹組
主題名 「目標に向かって」1－（2）勤勉、努力、不とう不屈
資料名 「戦場から女優へ」（自作資料）
- 12月 4日（火）5年梅組
主題名 「大切な友達のために」4－（8）国際理解と親善
資料名 「韓国からの転校生」（道德性発達研究会）

イ 全職員参加の研究授業

研究授業実践にあたり、安城市教育委員会道德指導員のご指導をいただいた。全職員が授業を参観し、全職員による研究協議会を行った。研究協議会では指導員の先生から講話をいただいた。

- 7月 2日（月）6年松組
主題名 「目標に向かって」1－（2）希望、勇気、不とう不屈
資料名 「後藤まさたか ピアニストへの道」（自作資料）

ウ 道德研修会の実施

8月6日（月）に、柴田八重子先生（愛知教育大学講師）をお招きし、ご指導いただいた。模擬授業を行っていただき、教員が児童となって授業を受けた。柴田先生の授業は、読み物資料を教員が読み聞かせするのではなく、内容を児童に語り伝える展開であった。児童一人ひとりが感じ取った道德的価値を多く語らせるための発問の仕方についてご指導いただいた。

エ 成 果

- ・指導案作成時から共同で検討し、授業後、研究協議会を行った。このことにより、授業の発問や展開について意見の交換がしやすくなった。
- ・道徳指導員の先生や愛知教育大学講師の柴田先生に指導案作成時にご指導いただいたり、研究協議会で補助発問、グループでの話し合いなどについてご指導いただいたりしたこと
で、多くの教員が授業実践に自信がもてるようになった。

(2) 出会いや体験を取り入れた実践について

ア 総合的な学習や特別活動などと有効に関連づけた実践例

○ 7月 2日(月) 6年竹組

主題名 「目標に向かって」

資料名 「後藤まさたか ピアニストへの道」1-(5) 希望、勇気、不とう不屈

6年生は、総合的な学習で「かけがえのない命」を学んでいる。その中で、夢をかなえて命を輝かせている後藤正孝氏と出会った。世界的なピアニストであるにもかかわらず、児童たちに気さくに話しかけてくださったことから、児童にとって後藤氏はとても身近な存在となった。後藤氏に、「夢をかなえるためには、才能も努力も必要。でも、才能も努力の一つである。」と話していただいたことから、児童たちの心には、「なぜ、後藤氏は、そんなに努力できたのだろうか。」という疑問が生まれた。

そこで、道徳で「後藤まさたか ピアニストへの道」を提示し、子ども時代の後藤氏に隠された秘密を探った。そこには、「ピアノが好き」「好きだからずっと弾いていたかった」という後藤氏の気持ちがあり、児童たちも「好きな気持ちが夢を支えていた」という意見をもった。

イ 外部講師との出会いを取り入れた実践例

○ 10月 3日(水) 4年松組

主題名 「自分のダイヤモンドをみがこう」1-(5) 個性の伸長

<関連> 2-(3) 信頼、助け合い

資料名 「うれしく思えた日から」(小学校道徳読み物資料集)

ロンドンオリンピック陸上競技日本代表中野弘幸さんを迎え、直接お話を聞いた。自分のよいところを伸ばす努力をした結果、夢が達成できたことを話していただいた。

<児童の感想>

- ・小さいころから走るのが速くてとくいだったそうです。でも、大会に出るといつもトップにはなれなかったそうです。しかし、れんしゅうをくり返していくうちに成せきが上がっていき、ますますやる気がでたそうです。本物の中野選手に会えてびっくりしました。

ウ 体験と関連づけた実践例

○ 6月 7日(木) 3年梅組

主題名 「夢をかなえるために」1-(2) 希望と勇気

資料名 「奇跡の夢ノート」DVD

主人公の石黒由美子さんは、小学校2年生の時交通事故に遭い、顔を540針縫い、視野狭さく、三半規管の損傷という大けがを負った。その後、努力しハンディキャップを乗り越え北京オリンピックシンクロナイズドスイミング日本代表になった。

総合的な学習の時間に、児童たちは視野狭さくメガネをかけ、疑似体験を行った。

体験後、道徳の授業を実施した。

<児童の感想>

- ・石黒さんは、事故にあって目がみえにくく耳も聞こえにくくなりました。わたしたちはしやきょうさくメガネをかけ歩くことにしました。こわくて歩けませんでした。それでも石黒さんは、あきらめずに自分のゆめである「シンクロでオリンピックに出る」ことをたっせいしました。ゆめをもち続けあきらめずど力することが大切だと思いました。

○ 10月25日(木) 3年梅組

主題名 「夢を支える人」3-(1) 生命尊重

資料名 「たくさんの命を救いたい」(DVD)

医師吉岡秀人さんは、無料でミャンマーの医療の届かない地区で毎年2000人以上の子どもの命を救っている。「病気が治り、笑顔が戻った子どもを見ると、私自身が幸せな気分になる。」と支援を行っている。命の重みを実感し、自分がどのような状況におかれても、自分の夢に向かって努力し続けることは大切である。その吉岡さんの生き方を扱った資料である。

<児童の感想>

- ・わたしは吉岡先生が来たときの話し合いでは、とてもきんちょうしました。話を聞いて考えがとつぜんかわりました。考えがかわった人がたくさんいました。考えがかわってもいいと思います。みんなの考えが深くなったのです。吉岡先生の話聞いて、

ミャンマーはとてもまずしい国だと知りました。1日中はたらいて30円、30日はたらいて900円、そんないろいろなことを知りました。

さらに、総合的な学習や特別活動の話し合いを通して、ミャンマーに学用品を送る取り組みへと発展した。

<児童の感想>

・吉岡先生は、「火をつけよう」という歌を知っていますか。「火をつけよう」という歌は、吉岡先生といっしょですよ。吉岡先生がミャンマーから日本に来て、3年梅組に火をつけました。お金よりも大切なものは、やさしい心です。

・わたしたちは、吉岡先生に心を動かされました。ノート、えんぴつ、消しゴムもカードといっしょに送りました。送ったえんぴつなどを使ってください。

(3) 家庭や地域との連携について

ア 授業参観(10月3日)で全校一斉道徳授業を実施

○ 全校一斉道徳授業の成果

・道徳授業の一斉公開を通して、保護者の道徳への関心がより一層高まった。

・家庭でも道徳に関することについての会話が多くなった。

イ 外部講師(ゲストティチャー)による講演会

学校にお招きした外部講師(ゲストティチャー)の講演会(4回)には、保護者にも参加を呼びかけた。毎回30名前後の保護者の参加があり、児童と感動を共にすることができた。また、学校の道徳教育についての理解を深めていただく場となった。

<保護者の感想>

・先日、学校主催の「ふれあいコンサート」に参加させていただき、後藤正孝さんのとてもすばらしいピアノ演奏を聴くことができました。たいへん貴重な体験をさせていただき、うれしく思っています。一言では表現できないのですが、本当に感動しました。もう一つ感動したことがあります。それは、後藤さんが子どもたちにとっても大きな夢、希望、勇気を与えていらっしゃることです。子どもたちは(私たち大人もそうですが)後藤さんの演奏を生で聴き感じることで、目には見えない何か大きなものを得ることができたのではないのでしょうか。演奏後、子どもたちの顔がきらきらと輝いていました。「夢をもっていいんだよ。好きなことを一生懸命やっごらん。」きっとそんなメッセージが子どもたちの心に届いているのでしょうか。すばらしいピアノ演奏を本当にありがとうございました。

(3年保護者)

ウ 親子スクールサービス(8月25日)

親子(全校)で学校を清掃する勤労体験を行った。愛校心を育てると共に汗して働き、ふれあう時間となった。

<児童の感想>

・お母さんといっしょにみぞのそうじをしました。けっこうたいへんでしたが、やった後を見たらとてもきれいになっていてうれしくなりました。(3年児童)

エ ふれあいネット(10月30日)

1年生から3年生を対象に、地域の方々に昔の遊び(ヨーヨー、けん玉、おはじき、めんこ、こま回し、羽根つき、竹トンボ)を教えていただいた。遊びを教えていただくことを通して、地域の方々との交流を図ることができた。

<児童の感想>

・むかしのあそびをして、ヨーヨーがむずかしかったです。おはじきあてがかんたんでした。またやりたいです。(1年児童)

・ぼくは、竹トンボであそんだことがありません。だからとても楽しかったです。竹トンボのとばしかたのコツが分かりました。おじいさんたちが分かりやすく教えてくれたからよく分かりました。(3年児童)

オ 情報の発信

定期的に発行している「学校だより」で、本校の道徳の方針や講演会の案内、児童の様子等を家庭や地域に伝える。また、ホームページでも学校での道徳教育の取り組みを広く紹介している。

「にしきっ子の会」でのクラス発表で、お世話になった地域の方々や保護者に道徳や総合の1年間の学習の成果を伝え合う場面を公開した。

7 今後の課題と取組

- ・発達段階に即した資料の選定と活用方法の工夫をさらに進めること。
- ・具体的な体験の場を考えること。
- ・学校の教育活動と家庭や地域との連携をより活性化させること。